

( 3 ) 化学 ( 医薬品を除く )

17 / 16 18 / 17  
: 天気図マーク ;

伸び率 10%以上 ● 伸び率 0 ~ 10%  
伸び率 0 ~ 10% 伸び率 10%以下

**1 . 企業経営動向 ( 需要、生産・設備投資、企業収益、財務 )**

( 1 ) 需要

石油化学製品の内需については、依然として高い経済成長が続いている中国の影響や景気回復基調による国内の民間需要が堅調に推移していることから、前年を上回る見通し。外需については、中国を中心に大型プラントが立ち上がる等、アジア地域の需給が緩和されることから輸出入バランスが若干ながら悪化するものと見込まれる。

また、液晶・半導体関連部材についても、価格競争は激化するものの、市場の拡大により引き続き好調に推移すると見られる。

( 2 ) 生産・設備稼働

石油化学では、堅調な内需及びアジア地域での需要好調を受けて、前年に引き続き設備稼働率は高い水準を維持することが見込まれる。生産能力については、国内需要が増加しているポリプロピレン等の新增設が、海外拠点では中国を中心とするアジア地域で生産能力の増強が予定されている。

また、液晶・半導体関連部材でも旺盛な需要に対応すべく、国内外で積極的な生産能力の拡大が見られる。

( 3 ) 企業収益

17年度の収益状況

主要化学企業の決算概況は、石油化学部門は中国を中心としたアジア地域の旺盛な需要がある一方で、ナフサ等の原材料価格の高騰のペースに価格転嫁が追いつかず、増収減益となった企業も見られた。

一方、液晶・半導体関連部材を中心とする機能性化学品部門は、価格低下の影響があるものの、旺盛な需要に支えられ、引き続き増収増益と好調を維持している。

今後の収益動向の見通し

石油化学製品については、需要は引き続き底堅い動きとみられるが、原材料価格は高止まりが続き、増収減益と見込んでいる企業が多い。

また、機能性材料では、引き続き液晶関連材料の価格下落が進むが、販売数量の増加で補うなど増収増益を見込んでいる。

( 4 ) 財務

17年度では、営業キャッシュフローで借入金の返済や社債の償還を行い有利子負債の圧縮をした企業が多く見られたが、18年度以降はROA、ROE、D/Eレシオ等の経営指標を意識しつつ、積極的な設備投資により一時的に有利子負債の増加が予想される。

## 2. 設備投資動向（16年度実績、17年度実績見込、18年度計画）

### （1）これまでの設備投資の推移

16年度は、原材料価格高騰などのマイナス要因があったものの製品需要の増加や中国を中心としたアジア向け需要の拡大等によって、化学工業全体では1.6%と3年ぶりの増加に転じた。

17年度については、更なる原材料価格の高騰等の影響を受けつつも、積極的な投資の効果で石油化学（前年度比15.2%増）、有機化学（同5.0%増）を中心に伸長し、化学工業全体では11.5%と2年連続の増加となる見込み。

### （2）平成18年度の設備投資計画（化学工業〔医薬品を除く〕延べ100社ベース）

- ・18年度は、機能性材料関連を中心とした生産能力増強や、更新、維持・補修関連への増加が見られることから、前年度比30.8%増の6,150億円となる見通し。
- ・業種別では、有機化学や石油化学をはじめ、無機化学、化学肥料も含めて全体的に伸び幅が増大する見通し。
- ・目的別投資では、高付加価値製品を中心とした生産能力増強や設備の更新・維持・補修、地球温暖化対策の一環として環境保全への投資が増大する一方で研究開発への投資が減少傾向にある。

## 3. 長期資金調達・運用動向（長期資金運用動向、長期資金調達動向）

### （1）長期資金運用動向

18年度における長期資金需要額は9,637億円（前年度比+1,904億円）と増加。うち、設備投資所要資金額は、同853億円増の4,947億円で、長期資金需要額全体に占めるウェイトは同1.6ポイントの51.3%となる見通し。

### （2）長期資金調達動向

長期資金調達の内訳は、好調な業績を反映して、自己資金（内部資金）が6,772億円（前年度比+227億円）と増加。また、有利子負債については、社債による調達（同+1,906億円）、借入金による調達（同+69億円）ともに増加の見通し。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

